

不正選挙論と反証主義

——いかがわしい論説とどう戦うべきか——

小河原 誠

まえがき

選挙の開票業務には不正があり票が操作されているので、ほんらい当選するはずの候補が落選しているとまことしやかに語る人たちがいる。こうした人たちの論説——むしろ、風説とでも言うべきもの——を本書では、「不正選挙論」と呼び、真っ向から論駁しておいた。なぜ、くだらない議論を論駁したのかについては、第三章を参照していただけたらありがたい。

ただ、その議論は一部の人たち——とくに、本書が第一に向けられるべき人たち——には、いささか難解であったようだ。そこで今回、今までに書いたものを一書とするにあたって、補論とでも言うべきものを書き足して、多くの人にとって聞きなれていないかもしれない用語についての解説を加えておいた。それが、第一章 **不正選挙論のばからしさ** である。もともとは**不正選挙論と反証主義** と題した第二章が最初に書き上げられた本論である。これには、自己完結的に用語解説なども書き込んであるので、独立して読んでいただけると信じている。科学哲学の基本素養をお持ちの方は、最初からこの部分を読まれるだけで十分であろう。科学と科学でないものとの境界を定める境界設定規準は、科学哲学者のカール・ポパーによって提案されたものだが、それを不正選挙論に適用したのである。第三章 **なぜ不正選挙論は政治的に有害なのか** もまた補足であって、不正選挙論がいかに危険であるかを指摘したものである。

第一章 不正選挙論のばからしさ

不正選挙論のばかばかしさだけを指摘しようと思うならば、じつは簡単にできる。たとえ話をすれば十分である。

八百長相撲を糾弾する人がいる（いた）。野球賭博も、また、競馬の不正も、指弾されてきた。さらに、スペインかどこかでサッカーのインチキ試合が告発されたこともあったと思う。

ことほどさように不正はあちこちにある。政治の世界では日常茶飯事だ。人間の営みの

なかで不正のないものを探するのは哀しいほど難しい。まさに石川五右衛門の心境で、浜の真砂は尽きるとも世に悪党の種は尽きまじ、ということになる。

では、どうすればいいのか。簡単だ。不正や悪をその都度、摘発して除去し、そうしたものを生じさせないシステムの構築を不断に努力すべし、というに尽きる。

ところが、奇妙なことを言い出す人が出てくる。とくに選挙システムについて、不正がおこなわれるだろうというのである。この主張は、「サッカーでインチキ試合がおこなわれるだろう」という主張と瓜二つである。つまり、不正が生じうるだろうという点で、そして、どの選挙（あるいは、どのサッカー試合）で生じるのかについては一言も語っていない点で同じなのだ。こうしたものは、「そのうちどこかで地震が生じるだろう」という予測（？）と同じで、そりゃ何年かのうちには間違いなく生じるでしょうねとしか、返す言葉のないしろものである。こんなものを科学的予測と考える人はいないと思うのだが、ところがどっこい、世の中にはじつにさまざまな人がいるわけで、私がこうした駄文を書くはめになっているわけだ。

つまり彼らは、予測（？）が的中すれば、自分たちは正しかったのだと考える人たちなのだ。そして、じっさい予測（？）は的中する——いつかはどこかで生じるとしか言っていないのだから、あたり前の話だ。こうした人たちに対しては「そりゃ、そうでしょう」としか言いようがない。なんともまあ、おめでたい人たちだ。的中したからと言って科学的予測になるわけではない。的中しさえすればいいというのなら、星占いとか、血液型占いとか、動物占い——こんなものもあるらしいが私は具体的なことは知らない——のほうがか的中する。これらは大体において、なんとでも解釈できるあいまいなことしか言わないから、的中してしまう。ふつうの神経の持ち主なら、ここに挙げた地震予測のような例は予測（？）ではなく、せいぜい「警告」としか受け止めないだろう。そして、ほとんどの人が的中したからと言って、その予測（？）のもとになった理論（？）が真であるとは考えないだろう。

ここでちょっと「的中する」ということについて、ひと講釈させていただきたい。またたとえ話になるが、サイコロを振って、出る目が何になるかを予測する場面を考えていただきたい。私が「整数の目が出る」と言ったとしてみる。あなたは、目を見開いて私を見つめることだろう。で、私がこれは何かまずいことを言ったかなと思って、「いや、いや、偶数か奇数の目が出ますよ」と言ったとしてみる。ここであなたは、吹き出すにちがいない。そこで、私が「奇数の目が出ますよ」といったら、あなたは「そりゃ五〇パーセントの確率で当たるわな」と言うことでしょうね。ついで私が、「3の目が出る」といったら、あなたは「当たらんじゃないの」と私をバカにすることだろう。